

今冬の電力需要動向について

平成20年2月22日
東京電力株式会社

【現時点までの今冬の電力需要動向】

- ・今冬の**最大電力**は、1/23(水)18時に記録した**5,502万kW**。これまでの冬期最大5,236万kW (H18.2/6(月)18時)を266万kW (105.1%)上回り、2年ぶりに記録更新【**今冬4度目**】
- ・今冬の**1日の総需要電力量(日量)**の最大は、1/23(水)の**10億9,860万kWh**。これまでの冬期日量最大10億3,745万kWh (H18.2/6(月))を6,115万kWh (105.9%)上回り、2年ぶりに記録更新【**今冬2度目**】
- <参考> 今冬の**発電電力量**は、1月(速報)が293.6億kWhとなり、従来、冬期として月間で最も高かった18年1月の288.3億kWhを5.3億kWh (101.8%)上回った。

1. 今冬の最大電力・日電力量の発生状況

<冬期最大電力>

- 今冬は1月上旬まで概ね暖冬傾向で推移。気温が平年を下回った1月中旬以降、最大電力が上昇し、**1/17(木)**には**5,277万kW**(東京地方の発生時気温4.1℃)とこれまでの記録(5,236万kW: H18.2/6(月))を**2年ぶりに更新**。
- 翌18日(金)に5,278万kW(同4.9℃)、21日(月)に5,300万kW(同4.9℃)と連続して記録更新した後、**23日(水)**には**5,502万kW**(同3.6℃)を記録。

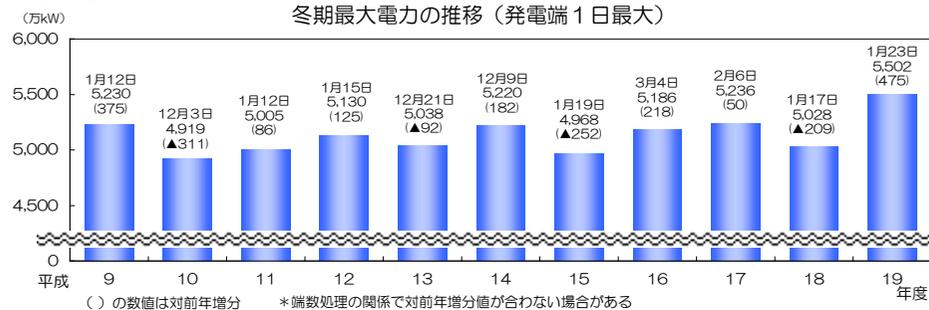
<冬期の1日の総需要電力量(日量)>

- 1/18(金)に10億7,032万kWhと、これまでの記録(10億3,745万kWh: H18.2/6(月))を2年ぶりに更新、23日(水)には10億9,860万kWhを記録した。

<日平均気温の推移(東京地方)>

	12月				1月				2月		1-21日
	上旬	中旬	下旬	月間	上旬	中旬	下旬	月間	上旬	中旬	
本年	10.3	8.6	8.2	9.0	7.6	5.4	4.8	5.9	4.3	5.3	5.0
前年	9.4	10.0	9.1	9.5	7.4	7.1	8.4	7.6	9.0	8.4	8.8
平年	9.7	8.3	7.3	8.4	6.2	5.7	5.4	5.8	5.5	6.2	5.9
前年差	0.9	▲1.4	▲0.9	▲0.5	0.2	▲1.7	▲3.6	▲1.7	▲4.7	▲3.1	▲3.8
平年差	0.6	0.3	0.9	0.6	1.4	▲0.3	▲0.6	0.1	▲1.2	▲0.9	▲0.9

<参考>



冬期最大電力順位表

①5,502万kW	1/23(水)18時	3.6℃
②5,407万kW	2/6(水)18時	1.9℃
③5,300万kW	1/21(月)18時	4.9℃
④5,278万kW	1/18(金)18時	4.9℃
⑤5,277万kW	1/17(木)18時	4.1℃
⑥5,236万kW	H18.2/6(月)18時	3.0℃

※気温は東京地方の発生時気温

冬期日電力量順位表

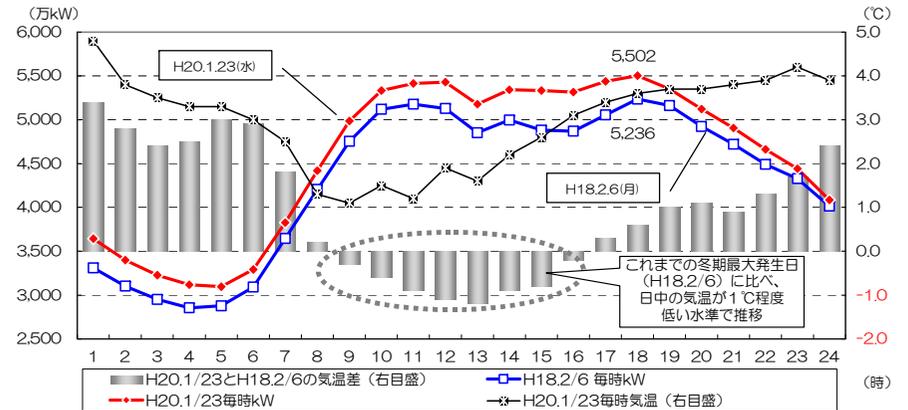
①10億9,860万kWh	1/23(水)	3.0℃
②10億8,205万kWh	2/6(水)	2.8℃
③10億7,032万kWh	1/18(金)	3.6℃
④10億5,935万kWh	1/29(火)	5.2℃
⑤10億5,716万kWh	1/25(金)	3.4℃
⑥10億3,745万kWh	H18.2/6(月)	2.0℃

※気温は東京地方の日平均気温

2. 今冬の最大電力の更新要因

1) 発生日の気象状況

- 朝方から風過ぎにかけて降雪が続き、日中の気温が非常に低い水準にとどまった。
【東京地方の気温は8~13時が1℃台、14~15時で2℃台】
- こうした気象条件のもと、日中から暖房需要の大幅な増加がみられ、夕刻にかけて**暖房需要が高止まりするなかで、照明需要増等**が加わった。



2) 冬期販売電力量の増加

- 19年度12~1月の用途別販売電力量(月平均)

用途	19年度12~1月	17年度12~1月からの増分(注)
電 灯	約 97億kWh	約+6億kWh (106.5%)
大口電力	約 71億kWh	約+3億kWh (104.8%)
販 売 計	約256億kWh	約+10億kWh (104.3%)

(注) 気温・検針日数の影響を補正した試算値

【主な要因】

- 契約口数の増加や暖房需要増による電灯需要の増加・・・①
 - ・19年12月の従量電灯などの契約口数は、世帯数の増加などにより、17年12月に比べ+63万口(103.0%)の2,175万口

<参考> 暖房需要の電力シフトの可能性

- ・全国のエアコンの出荷台数(19年10~12月)は112万台と、17年10~12月と比べ1割程度の増加(日本冷凍空調工業会資料より)
- ・全国の石油ストーブの出荷台数(19年10~12月)は275万台と、17年10~12月と比べ4割弱程度の減少(経済産業省生産動態統計より)
- * 当社エリア内の灯油販売量(19年12月)は98万klと、17年12月に比べ3割程度の減少(石油連盟資料から算出)

- 生産の増加などによる大口電力の増加・・・②

- ・19年10~12月の鉱工業生産指数は、17年10~12月に比べ6.3%増(関東経産局資料より)